

C 45 女子短大生の飲料摂取について(第2報)
戸板女子短大 蟻川トモ子 木村真由美
文教大女短大 ○大久保洋子

〔目的〕我が国の水道水の普及率はめざましく、我々はその水を飲料として井戸水同様に安心して飲んできた。しかし、消毒臭にくわえて塩素の害等が報じられる昨今 水道水をそのまま飲むことは減少傾向にあるのではないかと考えられる。昨年に引き続き飲料水の実態を知るべく調査を行った。尚、今回の調査には食事の中の汁物も加えて行、た。

〔方法〕1990年12月9日～16日の日曜日を含む連続6日間とし、二校の女子短大生(A 107名, B 142名) 249名について質問紙調査法による調査を行った。

内容は水、水以外の飲料、汁物の摂取量及び種類、摂取状況、生活活動強度等についてこれらを項目毎に集計し考察を行った。又、意識調査もあわせて行、た。

〔結果〕水を6日間とも飲んだものはA 0%, B 13%, 6日間とも飲まなかったものはA 48%, B 13%であった。前回調査の3日間冬期と比較すると両校ともに毎日飲んだものの割合が少なく、一日の水の摂取量をみると A 39.6 ml, B 80.2 ml, で昨年より減少している。全体としては A 754 ml, B 733 ml, で平日と休日では両校ともに休日の方が多い傾向を示した。又、水の摂取量も休日の方がわずかではあるが多かった。

汁物としての摂取量は A 135 ml, B 114 ml, であった。汁物を除く飲み物と水の摂取量は 619 ml となり、両校に差はみられず 前回の平均値は 660 ml であった。

両校あわせて井戸水を使用しているものは 28名、水道に浄水器を使用しているものが 12名であった。